

## 点字図書館での日々

西宮市視覚障害者図書館 山田友香

私は2017年4月、西宮市社会福祉協議会が運営する視覚障害者図書館の嘱託事務員として採用されました。図書館自体は総合福祉センターの中にあり、職員5名という少人数体制です。しかし点訳と音訳のボランティアグループが3団体存在し、当館では60名以上の方が活動しています。

### ■視覚障害者図書館とは？

当館以外に、全国では「点字図書館」、「視覚障害者情報提供センター」などの名称で200ほどの施設があります。利用者は、何らかの理由（全盲・弱視、発達障害、肢体不自由など）で活字による読書が困難な人です。所蔵資料は点字図書に限らず、カセットテープやCD形態のデージー図書と呼ばれる録音図書などがあります。職員の主な業務としてはそれら図書の貸出返却作業のほか、製作のマネジメント、対面朗読の手配、点字教室の開催、点訳及び音訳ボランティアの育成・支援などです。最近ではICT機器の講習を行なっている図書館も増えていますが、当館ではまだ実績がなく今後に向けての課題となっています。

利用者にとって、近隣に点字図書館があることの最大の利点は、来館型限定のサービスが受けやすいことです。特に全盲や弱視の方にとって、初めて行く場所には同行者の援助が不可欠で、盲導犬を利用しておられる方もいます。そのため来館が難しい利用者への貸出は自宅への郵送が中心となり、個人文書の点訳や音訳なども依頼に応じて担当ボランティアへ製作をお願いしています。

### ■貸出方法の特色

当館で製作する図書のタイトル数は年間平均、点字図書100タイトル（500冊程度）、録音図書250タイトル（カセットテープ50タイトル、デージー図書200タイトル）です。しかし、利用者へ貸出する図書は当館で製作したものとは限りません。なぜなら、各図書館が1タイトルの製作にかけける期間は約3ヶ月～1年と長く、製作可能な新刊本の点数が限られています。そのため各点字図書館は全国的に連携して、「サピエ図書館」というオンライン上の書誌データベースを活用しています。これは、製作した図書の情報共有や、貸出依頼の発信・受付、コンテンツデータのダウンロードが可能なシステムです。会員登録中の施設・個人は、全国の点字図書館（※一部公共図書館含む）が所蔵する図書を貸出依頼し放題、かつダウンロードし放題という便利なサービスを受けることができます。しかし個人の場合は、A会員（視

覚障害者）、B会員（その他の障害者）のどちらかに該当しない場合、登録することができません。これは著作権法第37条が関係しています。関心のある方は、少し調べてみてくださいね。

そして私たち貸出担当者の仕事は、サピエ図書館、電話、FAXなどを通じて自館に届く貸出依頼を処理（相互貸借）することです。当館では点字・録音合わせて日々100件ほどを処理しており、送付した図書は各会員施設を經由して利用者の手に渡ります。また自館利用者の希望に対しては、書庫出納、他館への貸出依頼、あるいはコンテンツデータのダウンロードを行い、発送します。中には「内容は担当者のお任せで定期的に送って欲しい」という依頼も多いです。そのような場合は、希望の図書形態（点字or録音）、読むペース、好みのジャンルなどを考慮しながら送付します。



書庫整理中の筆者。左の棚は点字図書、右の棚はデージー図書

### ■貸出担当者として

入職当時は、うろ覚えのタイトルから目的の図書を探し出すレファレンスが中心で、毎日ドキドキでしたが、今では各利用者の読書傾向を把握しながら先取りして図書がお届けできるようになりました。利用者の方から「届いた本がちょうど読みたかった本」、「今日読む本が無くなる前に届いた」などとお声掛けいただくことが増え、日々やりがいを感じています。

2019年春からは録音製作に関わり、新規ボランティアの育成も始めていきます。録音図書は、視覚障害だけでなく、発達障害や様々な理由により読書が困難な方にとって、読むことを楽しむ可能性を広げると考えています。また、著作権法一部改正（2019年1月1日施行）により、視覚障害者等のための複製等は第37条3項で「視覚障害その他の障害により視覚による表現の認識が困難な者」と広く対象化されるようになりました。今後、学校や公共図書館ともさらに連携し情報共有に努めたいと思います。

（人間文化研究科人間文化専攻修了生）